ソーシャルスキルトレーニングVR



FACE DUO

User's Voice vol.44

医療法人中沢会 上毛病院

認知症疾患医療センター
高次脳機能障害連携拠点医療機関



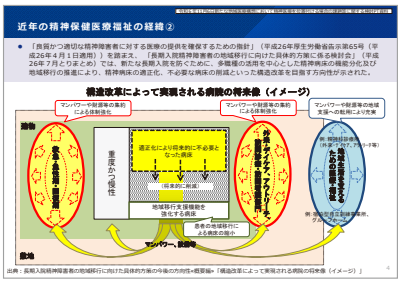


群馬県初の **児童思春期デイケア** 開設
あらゆる世代に対応できる支援を

地域移行を実現・維持するための多職種チーム医療を強化



地域医療構造改革を受け、多職種共同によるチーム医療を目指し、急性期から慢性期さらには在宅までカバーできる体制を構築しています。心身両面の医療・リハビリテーションが精神障害者の社会復帰に必要と考え、精神科をバックアップする体制として、内科、外科、整形（リハビリテーション）医が連携して対応しています。そのため、精神科作業療法・SSTと理学療法を平行して行っています。



厚生労働省
精神医療に関する
地域医療構想の
今後の検討体制について
資料より

医師も一丸になって紹介することでSSTの文化が定着

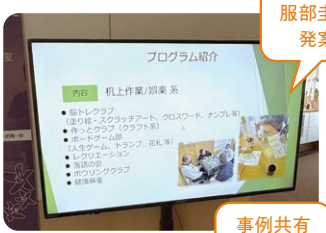
FACEDUO導入は、患者さんにデイケアやSSTに関心を持ってもらうきっかけになりました。

外来
待合場所でデイケアのプログラムをサイネージ映像で紹介。医師も診察の中で積極的に紹介しています。映像を見た家族から、参加させたいというケースもあります。

病棟
看護師が退院後のプログラムとして紹介しやすいように、VR-SSTの内容や、実施した患者さんの症例報告を院内の看護研修会で共有。

デイケア
利用者に朝礼やデイケア新聞で紹介。コンテンツ内容の充実や、VR機材をみせることで、実は、就労に関心があったんだけど、個別でトレーニングができるのであれば、ぜひやってみたいという参加者に繋がっています。

副院長
服部圭悟先生の
発案で実現



デイケア新聞より



事例共有



FACEDUOを利用し始めてから変化を感じている。
相手の対応を被害的に捉える悩み相談が減り、
他のデイケア利用者との交流が増えている。

現在、就労準備支援を受けるべく、
まずは電話の会話方法について練習中です。

FACEDUOの経験値が児童思春期ひきこもり支援デイケア開設のきっかけに

児童思春期外来を開設した時から、コミュニケーション課題がある患者さん親子やひきこもり支援にVR-SSTを提供する場を模索してきました。令和7年10月、安心できる居場所作り、自己実現のための場所として児童思春期デイケア開設できたのは、FACEDUOの経験から職員らがコミュニケーションプログラムに自信を持てるようになったことも一因です。利用者には自己表出への苦手意識がある方が多いため、まずは職員との信頼関係を築き、安心して過ごせる環境だと感じてもらうことを大切にしています。その上で、適切なタイミングを見極めながら少人数でVR-SSTを提案します。

事　例

発達特性がある利用者二人に「VRを使って、学校の場面で先生や友達に話しかけてみる練習があるんだけど、一緒に試してみよう」と声掛けしたところ、二人で相談しながら「自分から報告する」というコンテンツを選択。学校生活の経験が少ないこともあり、ロールプレイを行うことに難しさはみられましたが、直後のスタッフ面談では早速「メモを取る」という行動を実践する姿がありました。スタッフからの称賛の言葉も自然に受け入れられており、学んだ内容を実生活に活かそうとする前向きな様子がうかがえました。



教師への報告が
中断してしまった場面を
当事者目線で体験します。



【メンバーさんの感想】

- いつものSSTよりやりやすい。
- VRをもう一度やりたい。また参加したい。
- 臨場感があった、リアルだった。
- 色々な人の意見がでてくると思う。
- 現実に起きているようで、わかりやすい。

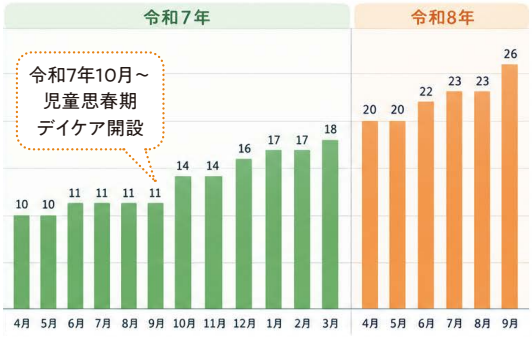


児童思春期デイケアへの相談・紹介が増加

児童思春期デイケアの情報をSNSで積極的に発信することで、県内のスクールソーシャルワーカーから不登校児童の紹介件数が増加しています。

選ばれている理由の一つは、医療機関ならではの支援体制です。医療職による専門プログラムの提供に加え、送迎サービスを整備することで、継続的な支援につながっています。

「FACEDUO」には、「ひきこもり家族支援」コンテンツも搭載されています。不登校やひきこもりの課題は本人への支援だけでなく、家族へのサポートも重要です。FACEDUOを活用することで、ご家族が適切な知識や対応方法を学びながら、安心して支援を受けられる環境づくりを実現しています。



（10代～30代の登録者数の推移）

デイケアが居場所ではなく、通過点になるように

入院期間の短縮化や発達特性のある通院患者さんが増えている今、デイケアは、利用者さんの希望に沿ったステップを応援する場所になりつつあります。そのためには、様々なステージの方を受け入れ、多彩なプログラムを提供することで、「ここなら自分の目標を叶えられる」と利用者さんに思ってもらえることが大事です。コミュニケーションプログラムを強化したことで、一人でも多くの利用者さんが、地域で活躍してくれることを期待しています。



詳しくは公式サイトにて

faceduo　検索

販売 Otsuka　開発・製造 JOLLY GOOD!

2026年10月作成
FD2610009

FACEDUOは非医療機器です。